

令和8年度 学校経営構想

八女市立星野中学校

学校教育目標

郷土を愛し、将来を見つめ、賢く、優しく、逞しく生きる「星のっ子」の育成

めざす生徒像

- 星野のよさを学び、大切にしていける生徒
- 自ら進んで、問い続け学び続ける生徒(賢く)
- 自他を認め合い、共に伸びていく生徒(優しく)
- 心と体を鍛え、最後までやり抜く生徒(逞しく)

教育課題

- 1 主体的な態度の育成(指示待ちからの脱却)
- 2 自分の考えを表現する力の向上(自分の考えを人に伝える表現力の育成)
- 3 学びに向かう力の涵養(学びを調整する力、粘り強く挑む力の醸成)

経営課題

- 1 生徒が主体的に活動する教育活動の工夫
- 2 主体的・対話的な学習指導への転換
- 3 円滑な校務運営のための組織強化(部会長が機能する組織)

中期的な教育目標

自分(たち)で決めた目標に向かって挑戦する生徒の育成

重点目標

チャレンジ！きのうまでを越えよう！

【具体的生徒像】

生徒が自らの役割と責任を自覚し、学校内の活動(係・当番活動や行事での役割等)や学校外の活動(文化的・体育的行事やボランティア活動)において、主体的に取り組む、自分を高めている姿。

【成果指標】 「あなたは、自らの意思と責任をもって、校内での係や当番活動、行事の役割、または校外での文化的・体育的行事またはボランティア活動に取り組むことができましたか。」
(学校評価生徒アンケートにおいて、「できた」の回答が4段階中3.4以上)

教育課程編成の基本方針

- 1 各教科・領域教育課程の編成者
校長を責任者とする全職員の協働のもとに編成する。
- 2 教育課程編成の原則
(1)関係法令並びに学習指導要領の示すところに従う。
(2)八女市教育施策要綱を踏まえ編成する。
(3)地域や学校の実態や生徒の特性を十分考慮する。
- 3 教育課程編成において配慮すべき内容
(1)学校教育目標、重点目標達成をめざした編成
(2)学習指導要領による確実な編成
(3)特別活動(学級活動・生徒会活動・学校行事)の充実
(4)「総合的な学習の時間」の充実
(5)地域の教育資源(ひと、もの、こと)の活用
(6)生徒指導および人権教育の視点を基にした教育活動の推進
(7)キャリア教育の充実
(8)特別支援教育の視点に立った授業の充実
(9)対話活動を通じた思考力・判断力・表現力の育成(言語活動の充実)
(10)個に応じた指導の充実
(11)小中連携教育の継続的な実践
- 4 教育課程の管理に向けて
(1)年間授業日数及び月別授業時数の提示
(2)週案の提出及び点検

経営方針

教育目標・重点目標達成に向け、全職員が連携して活力ある学校、地域に信頼される学校を目指す。

1 組織運営

- (1)主任、主事はもとより全職員の責任ある職務遂行を目指す。
- (2)提案に基づいた全職員共通した教育活動の推進を目指す。
- (3)チームワークの構築を目指す。(温かさや節度のある組織運営)

2 教育活動

- (1)校内研究のさらなる充実と、対話活動を核にした授業を目指す。
- (2)話し合いで問題解決を図る学級活動の充実を目指す。
- (3)積極的な生徒指導、深みのある(心が動く)人権・同和教育を推進し、良好な人間関係や集団の中での学力の向上を目指す。
 - ・友だちの失敗や間違いを非難するのではなく受け入れられる生徒の育成
 - ・自分の周りに起こるさまざまな問題を解決しようとする生徒の育成
- (4)地域の資源を活かした体験活動を行い、星野を愛する生徒の育成を目指す。
- (5)保護者との連携による家庭学習の充実を目指す。
- (6)社会に通用するルールやマナーを身につけた生徒の育成を目指す。
 - ・高校に進学しても恥ずかしくない礼儀を身につけさせる

3 教育環境

- (1)地域学校協働活動・学校運営協議会を軸に、地域と共に子どもの育成を図る。
- (2)家庭学習、人権・同和教育の保護者への啓発を図る。

4 人材育成

- 今日の課題に対応した研修を推進し、授業力・生徒指導力の向上を目指す。

経営の重点

1 組織運営

- (1)「星のっ子部会」を中心とした特別活動(学級活動)の充実
- (2)主任・主事等の責任意識の高揚
- (3)学校評価を生かした組織の活性化

2 教育活動

- (1)授業改善の推進
 - ①各種データの分析と課題解決の手立ての考察(学びづくり部会を中心に)
 - ②自分の考えを書く、考えを交流する、深まった考えを書く場面の設定
 - ③深まった考えやまとめた考えを伝える(発表する)場の工夫
 - ④「教える」から生徒自身が「考える」「身につける」学習指導への転換
 - ⑤探究・企画型学習(PBL)の推進
- (2)対話活動に重点を置いた学級活動の推進
 - ①課題解決のための4サイクルの実施(課題発見、手立ての話し合い、手立ての実施、評価)
 - ②教師からの適切な評価
- (3)鍛えて褒めて伸ばす指導の実践
 - ①チャレンジ(やってみよう、挑戦してみよう)の環境づくりと場の確保
 - ②生徒の適性を考えたうえで、適性の伸長が図れる活動への奨励
 - ③生徒の活躍に対する教師からの適切な評価
- (4)総合的な学習の時間の充実
 - ①系統的・効果的なカリキュラムづくり
 - ②実生活に結びつく課題の設定(考えが深まる課題)・発表の場の設定

3 教育環境

- (1)地域学校協働活動、学校運営協議会の活性化
- (2)人権・同和教育の保護者への啓発(人権学習の授業参観等)
- (3)学びの多様化を念頭に不登校生徒の居場所づくりの整備

4 人材育成

- (1)授業力向上を目指した授業研究と指導案審議
- (2)校外研修への積極的な参加
- (3)部会長をリーダーとした各部会の推進

研究主題

生徒と教師がともにつくるめあてづくり